

いしかわの遺跡

No.
39
2011.12.27

第13回

古

代

体

験

ま

つ

り



平成23年10月16日(日)、「交流」をテーマに第13回古代体験まつりを開催しました。

古代体験まつりは、発掘調査の成果等からわかった古代の知恵やワザを、体験していただくものです。「ガラス玉づくり」、「縄文弓矢体験」など22の体験コーナーを楽しんでいただきました。

ステージでは奈良時代の^{おおとものやかもち}大伴家持の^{じゅんこう}能登巡行を再現した特別イベント「^{まんよう}万葉の^{うたかい}歌会」を開催しました。ご来場いただいた多くの方々に、古代の風を感じとっていただきました。



財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail ● mail@ishikawa-maibun.or.jp ホームページ ● http://www.ishikawa-maibun.or.jp/

古代体験

古代体験学習講座 ～縄文土器づくり～

「縄文土器づくり」は2回連続の体験学習講座です。第1回(5月22日)では「土器づくり」をしていただき、第2回(6月11日)では「野焼き」で土器を焼き上げ、縄文住居の見学や、復元製作した縄文土器をつかって調理体験をするなど、縄文人の「暮らし」を体感していただきました。

モデルとした縄文土器は、県内の縄文時代のムラから出土したものです。「知恵」や「ワザ」が詰まった本物の土器をじっくり観察し、実際にふれてみることで、作品は本格的な仕上がりで担当した職員も驚きの出来映えでした。

第2回では、着火やマキで炎を大きくするなど、様々な工程に参加するだけでなく、当時の人たちが暮らしていた住居や土器の使い方を体感したり、土器の底面に残された編み物の技術を参考とした縄文ポシェットづくりをとおして、縄文時代をより身近に感じていただきました。

第1回講座

「土器づくり」



本物を見て、触れて



粘土の輪を積み上げていきます



土器完成！うまく焼けるかな～？

縄や貝殻を使って文様づけ



みんなで着火！



縄文時代と同じように「野焼き」します



熱い～!!!



縄文住居の見学や土器の使い方も体感！

第2回講座

「野焼き」

古代体験学習講座 ～弥生の玉づくり～

9月25日(日)に開催した「弥生の玉づくり」は、体験工房で普段つくることのできるまが玉よりも大きな特製「まが玉」づくりや細長い形をした「くだ玉」、青や黄色の「ガラス玉」をつかって、首飾りに仕上げる体験学習講座です。弥生時代、県内では玉づくりが盛んに行われていました。当時の建物からは製作途中の玉が数多く出土します。弥生時代の「玉づくり」をとおして、当時の技術の高さを感じていただけたようです。



まが玉づくり



くだ玉のあな開け



ガラス玉づくり

出前
教室

親と子の発掘体験教室

「親と子の発掘体験教室」は、小学校4年生から6年生の児童とその保護者が対象で、本年度は6月18日に第1回、7月23日に第2回を開催しました。

第1回の小立野ユミノマチ遺跡は、金沢市内の近世遺跡で、市内の小学生を中心に11組25名の参加がありました。絵柄のある陶磁器や土人形などを発掘し、洗浄中にその文様や形状が明らかになると、参加された親子は、江戸時代の暮らしぶりを想像されていました。

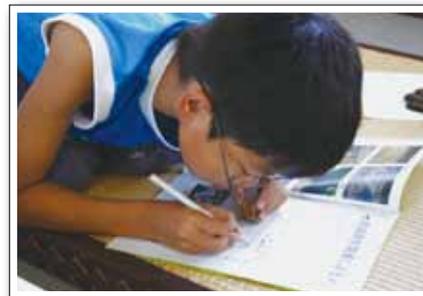
第2回の七尾城跡は、戦国時代の城下町で、能登の各地から9組18名の親子が参加されました。教室は七尾城跡の解説に始まり、戦国期の土器が出土する発掘体験に進むと、児童からは「昔の人の姿を思い浮かべられるのが良かった」と感想が聞かれました。また、土器の洗浄体験後は、夏休みの「自由研究に役立つ」との思いから、体験教室の記録「埋メモリー」に発掘した土器の形や特徴をメモするようすもみられました。



発掘体験の風景 (第1回)



洗浄のようす (第1回)



「埋メモリー」作成 (第2回)

情報
発信まいぶん出^デり張^バり かがを掘る

本年度の移動講座「まいぶん出^デり張^バり かがを掘る」を、7月3日(日)にかほく市大海交流センターで開催しました。講座では、かほく市内に所在する遺跡の発掘成果を「かほく市の原始・古代遺跡」と題して報告するとともに、出土した土器や石器、遺跡の写真パネルなどを展示するコーナーを設けて、郷土の歴史を物語る資料を解説しました。

会場は、弥生時代の環濠^{かんごう}が発見された大海西山遺跡^{おほみやま}を望む大海川の岸にあり、この遺跡のほか、古墳時代の祭祀遺物^{さいし}が出土した指江B遺跡^{さしえ}、古代集落の森ガッコウ遺跡^{むくみ}、縄文晩期の祭祀遺構^{さいし}とみられる環状木柱列^{じょうもくちゅうれつ}が発見された若緑ヒラ野遺跡^{わかみどり}などの成果を紹介しました。

参加者は、地元かほく市民やまいぶん友の会の会員など55名を数え、「身近な遺跡について、身近な場所^{かん}で聞き、参考になった」、「実物の展示があり、とてもよかった」との感想をいただきました。



報告のようす



展示コーナー



展示解説のようす



第13回 いしかわの発掘展「古代の交流～旅するモノたち～」

いしかわの発掘展「古代の交流～旅するモノたち～」を、平成23年7月15日～8月31日に、本館の研修室及びホールを会場に開催しました。今回の展示では、県内各地の遺跡から出土した、主に弥生～平安時代の交流を示す資料を展示し、交流のようすや技術の広がりについて紹介しました。

ホール展示「古代の船」

古代では船が水上交通の主役でした。出土した船材や櫂などとともに、復元された古代船の航海写真をパネルとして展示し、旅するモノたちの世界への誘いとなりました。

展示コーナー①「輝けるモノ」

弥生時代に大陸から青銅器が伝わります。鏡や剣などの出土品とともに復元銅鐸も展示し、輝きを放つ新しい道具の登場について紹介しました。

展示コーナー②「玉の彩り」

ガラス・ヒスイ・碧玉・滑石・琥珀でつくられた弥生・古墳時代の彩り豊かなアクセサリーを展示しました。これらは遠くの外産地からはるばる県内にもたらされたもので、当時の交流を物語る貴重な資料でもあります。

展示コーナー③「ワザの広がり」

弥生時代には稲作とともに木製農具をつくる石器が伝わり、やがて鉄の道具に置き換わっていきます。モノをつくる道具やその技術の広がりを通して交流について探りました。

展示コーナー④「異国の器」

平安時代に中国から輸入された陶磁器を通じて、海をこえた文化の交流について紹介しました。



主な展示品



展示見学 (ホール)



展示見学 (研修室)

古代
体験

夏休み「はにわづくり」体験

平成23年7月16日～8月7日に「はにわづくり」体験を実施しました。小松市矢田野エジリ古墳出土埴輪の作成技法などを参考に「人物はにわ」を製作するもので、粘土ひも（粘土を棒状にしたもの）を積み上げていきます。均等な太さの粘土ひもをつくるのは意外と難しく、多くの方は苦労しながらも楽しく製作していました。最後に頭部をつくり、高さ20cm程度のはにわに仕上げました。

作品約900点については、乾燥後、古代体験ひろば「復元古窯」にて、焼成して完成となりました。



親子で仲良く製作。腕は折れやすいので、慎重に仕上げます



大人の方も多く体験しました



窯での焼成風景（800度前後まで温度を上げます）



製作したはにわをもつ子供たち

古代体験まつり



縄文鍋試食



土偶・土面発表会



ひろばのようす



スタンプラリー



石斧使用体験



ガラス玉づくり



「万葉の歌会」出演者と記念写真



古代衣装試着



組みひもづくり



福井ナカミチ遺跡 (志賀町)



遺跡遠景 (南から)



掘立柱建物



製塩炉の調査

羽咋郡志賀町福井にある福井ナカミチ遺跡は、旧福野潟の南側、眉丈山系から連なる低丘陵の裾に位置します。周辺には旧福野潟を取り囲むように縄文時代から近世まで多くの遺跡が存在し関連が注目されます。

調査では、平安時代(9世紀後半から10世紀頃)の集落跡を確認しました。検出した遺構には6棟の掘立柱建物のほか、溝、土坑などがあり、出土した遺物には須恵器、土師器などがあります。また、遺跡の西側からは濃い海水(鹹水)を煮詰め塩を作る製塩炉の跡が見つかり、煮詰めるときの土器が大量に出土しています。

さらに、調査区の東側から革の腰帯(銚帯(かたい))に装着する巡方と呼ばれる銅製の帯飾りが出土しました。奈良・平安時代の腰帯は官人装束の象徴とされており、その帯飾りが出土したことから福井ナカミチ遺跡に官人が居住していた可能性があります。なお、この帯飾りには漆状の物質が付着しており、一般の役人が身につけたとされる烏油腰帯(銅の金具に黒漆を焼きつけたものを装着した帯)であったと考えられます。



表



裏

出土した帯飾り(巡方:縦 2.5cm 横 2.7cm)

みや おくきょうづか 宮の奥経塚 (小松市)

小松市遊泉寺町にある遺跡で、昭和 28 年に 3 基の塚が調査され経塚と報告されました。今回は、主要地方道小松辰口線道路改良工事に伴う発掘調査で、標高 35 m の丘陵平坦部に 5 基の塚を確認しました。そのうち以前調査された 3 基は、周囲に溝がめぐる方形の塚であることがわかりました。他の 2 基も一辺 6 m ほどの方形で、溝をめぐらせています。いずれも塚の中央に土坑があり、裾には長さ 30 cm 以上ある平らな石が貼り付けられていました。出土した土器などから、11 世紀後半～13 世紀 (平安時代後期～鎌倉時代) にかけて造られたと考えられます。



遺跡遠景 (東上空から)



裾に石を貼り付けた塚 (4号塚)



4号塚中央の土坑



5号塚全景



3号塚中央の石組

訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

国指定史跡 万行遺跡

万行遺跡は、七尾市街地の東方約2kmの低い台地上に立地します。北に七尾湾が広がり、台地東側には白池川が流れています。

平成10年度からの発掘調査により、弥生時代後期から古墳時代前期を中心とする遺構・遺物が数多く発見されました。なかでも、古墳時代初めの6棟からなる大型の掘立柱建物群が注目されます。柱穴は長辺が1.5mに及ぶ大きなもので、直径40cmの太い柱が使われていたと推定されます。

これらの建物はいずれも東西方向を主軸とし、まず西側の3棟(建物01～03)が建てられ、そのあと東側の3棟(建物04～06)に建替えられたと考えられます。整然とした配置や海に臨む立地から、倉庫群とする見解が有力です。造営者については、能登地域を中心とする広範囲のクニグニが連合して営んだとする説とヤマト政権が直接関与したとする説があります。

建物群を中心とする一帯は、平成15年8月に国指定史跡となりました。



万行遺跡と七尾湾(南から)



古墳時代初めの大型建物群(東から)



所在地：七尾市万行地区土地区画整理事業地
仮換地地番 57 街区 5 号公園
アクセス：JR 七尾駅から車で 10 分
問合せ先：七尾市教育委員会文化財課
電話 0767-53-8437

(写真提供 七尾市教育委員会)